



Eiche

# Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-518-1 清和会第2ワールドナースィングホーム

Tel 047-461-9111 Fax 047-461-7010

## 第18回ドイツ軍人慰霊祭開催

慰霊の辞を述べるグ大佐



参加者一同の集合写真



第18回「ドイツ軍人慰霊祭」が今年も船橋市習志野霊園で行われ、快晴の中、約70人が参列した。西阪知晃事務局長の司会で墓地に眠る30人のドイツ軍人に黙とうを捧げ「習志野第九合唱団」有志13人と参列者によるドイツ連邦共和国国歌の演奏で始まり、先ず宗宮好和会長が追悼の辞を述べられ、第一次世界大戦中習志野に設けられた収容所の約1000人の俘虜と地元住民との交流を象徴する一つのエピソードとして、生徒と共に度々収容所を訪れた小学校の女性教師に贈られたボトルシップに因み、昨年2月11日に『ボトルシップ研究会』を立ち上げ、ドイツ人捕虜の出身地、収容所での生活、残した文化、習慣等を調査中であると報告、亡くなられた軍人のご冥福と全地球の平和を望むと結んだ。続いてヨアヒム・グトー海軍大佐、船橋市長代理の羽鳥賢二・同市国際交流室長、習志野市長代理の島田行信・同市副市長が追悼の辞を述べられた(裏面参照)。更に橋口昭八副会長が30名の「御霊紹介」をし、最後に合唱団、参列者がドイツ軍人葬送歌「よき友」(Der gute Kamerad)を合唱、全員が献花し記念撮影で式典を終えた。その後、陸上自衛隊駐屯地内に会場を移し「直会(なおらい)」を行った。宗宮会長の挨拶に続いて、グト一大佐は駐日3年の任期が明ける来年に本国へ帰任すると報告、赤羽敏夫・同空挺団長代理も来年で任期が終了する為、今回が慰霊祭参加の最後となると話されると、会場からため息が洩れていた。地元の自治会長・縄田豊宏氏も永年の思いを挨拶に込められた。挨拶終了後、林静誠顧問の乾杯の音頭で懇親会に移り、新会員の横堀勝一氏が紹介され、又、神谷数房氏が1968(昭和43)年から1970(同45)年までこの空挺団の落下傘整備隊に所属しながら当時荒れたドイツ軍人墓地を清掃した思い出を披露して会場から驚きの声が上がっていた。

(理事 田中正延)

### 慰霊祭におけるご挨拶

ドイツ大使館国防武官  
ヨアヒム・グトー

ドイツ並びにドイツ国防軍の名におきまして、日独両国の軍人を追悼するこの慰霊祭にご参列いただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。私たちが今日ここで、かつては戦場で戦い、その後友となった人達に思いを馳せることは、大変素晴らしいことだと思います。そして、日本とドイツの深い友情が長い歴史を重ねてきたこともまた素晴らしいことです。昨年、日独両国は交流150周年を迎えました。船橋と習志野の皆様、皆様は、これからの150年においても緊密な友好関係が続いて行くことを確信させてくれる最良の存在でもあります。

千葉県日独協会、船橋と習志野の友人の皆様、陸上自衛隊第一空挺団、さらにはご支援下さったすべての皆様には、日本の地に眠るドイツ軍人慰霊のため長年にわたり毎年大変ご尽力をいただいておりますことに対し、そしてこの慰霊碑を大切にお守りくださいましたことに対し、御礼を申し上げます。第一次世界大戦に倒れた人たちから数えてすでにいくつもの世代がすぎっていますが、自由と平和のために戦うことが価値あるのと同様に、この墓地のような場所を思い起こすことも極めて大切なのです。

ご清聴ありがとうございました。

(慰霊祭続き) **メッセージ**

本日の追悼慰霊祭にあたり、第一次世界大戦で亡くなられたドイツ兵の方々の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。第一次世界大戦が終結して94年、歳月はどんどん流れてゆきます。私達は戦争を振り返る手立てが必要です。残念なことに人類は戦争をしながら歴史を作ってきました。私達は歴史を振り返り、戦争がもたらす悲劇を思い起こして、平和の大切さを確認し合うことが大切であると考えます。平和の尊さについての思いが、世代交代によって風化しないようにしてゆかなければなりません。こうした中で、千葉県日独協会のご尽力で続けられている慰霊祭は、日独両国の友好はもとより、世界平和を築くうえでも大きな意義を持つものであります。千葉県日独協会の皆様に心から敬意を表しますとともに、日独両国の友好と市民相互の友情が、さらに深まりますことを心から祈念いたします。

船橋市長 藤代 孝七

**ご挨拶**

皆さん、こんにちは。本日、ここにドイツ将兵の追悼慰霊祭が挙行されるにあたり、謹んで追悼の意を表します。本慰霊祭の開催にあたり、遠路お越しくございましたドイツ連邦共和国大使館のグト一大佐をはじめ、関係者の皆様、また準備段階からご尽力をいただきました千葉県日独協会の皆様方に、改めて敬意を表する次第であります。振り返りますと今から約97年前、第一次世界大戦の戦禍の中で、ドイツ兵士は習志野市にあった俘虜収容所で過ごすことになりました。5年間にわたる生活において、収容所内にはオーケストラも編成され、「美しく青きドナウ」などが奏でられ、またソーセージの作り方も教えていただきました。このように、収容所においては住民との様々な心温まる交流が行われていたのであります。国と国が戦争によって対立していたとき、故郷を遠く離れて捕虜生活を送っていた兵士の皆さんと住民との出会いにこそ、平和の原点があったように思われるのは私ばかりではないと思います。そして今日、ドイツと日本は国として深い友好を育んでいます。戦争という悲しい歴史を経験しながら、平和に友好を深めることができたのも、この地で行われ続けてきた、人と人の深遠なる友愛と友情があったからでありましょう。習志野市では、先月3回目となりますドイツフェア&グルメフェスタが行われ、2日間で2万4千人が来場しました。また来月は、35回目となる第九演奏会が開かれます。千葉県内で毎年続けて第九演奏会を開催しているのは習志野市だけであります。このように習志野市民は今もドイツを思う心を持ち続けております。現代を生きる我々が先人の方々に敬意を表し、更なる友好を深めることこそ、異国の地で望郷の思いを胸にお亡くなりになった御霊への最大の供養であります。この地に眠る30名のドイツ兵の御霊に哀悼の意を表しますとともに、本日お集まりの皆様のご多幸をお祈りして、ごあいさつとさせていただきます。

習志野市副市長 島田 行信

**－今後の主な催し物案内－**

**1. 新春講演会・懇親会**

- ・日時・・・2013年2月23日(土)13:00~14:30
- ・場所・・・千葉市生涯学習センター
- ・講師・・・坂井榮八郎東京大学名誉教授
- ・演題・・・「ドイツと日本ー似ているようで似ていない国」
- ・懇親会・・・15:30~17:30
- ・会場・・・「米細工・うのまる」(センター1階)
- ・会費・・・男性 3,500円、女性 3,000円
- ・その他・坂井榮八郎先生の最新刊『ドイツの歴史百話』(定価3,150円)は当日受付にて割引価格で販売します

◎ 申し込みは同封のがきに記入の上、1月31日までにお願いします。

**2. ボトルシップ研究会**

- ・日時：2月16日(土)15:30~17:30
- ・場所：高根台公民館 第2集会所  
新京成線「高根公園」駅から徒歩2分
- ・電話：047-461-7061
- ・問合せはメール ([fq8y-sumy@asahi-net.or.jp](mailto:fq8y-sumy@asahi-net.or.jp))  
またはお電話 (048-976-8253) で宗宮会長まで。

**クリスマス・忘年会**

本年のクリスマス・忘年会は、一昨年に続き柏方面での開催ということで、南柏の麗澤大学構内のレストラン「まんりょう」で、12月8日(土)17:30より開催された。会に先立ち同大学の前外国語学部長・奥野保明当会常任理事の計らいで希望者を募り、自然を大切にして配置された構内の建物や珍しい植物の見学ツアーが行われた。好天に恵まれた構内では見事な紅葉が随所に見られ、5月には枝一杯に白い花を咲かせる「ヒトツバタゴ」(別名なんじゃもんじゃ)などの珍しい木々や、同大学の創立者廣池千九郎記念館を見学、細かい説明を同大学の田中駿平常務理事にいただき松江理事、山田会員初め参加者に大好評であった。忘年会は飲み放題の他に酒類の持込み可の為、日本酒(渡部理事)、紅白ワイン(木戸理事)、シュナップス(綿貫理事)なども加わり、レストランの出す珍しい食べ物と共に大いに歓談。また、二宮理事・友野理事と野村理事のリードでクリスマスの歌やドイツ民謡を合唱して2時間半があつという間に過ぎ、8時半過ぎに閉会した。

